

谷地川整備事業 (八王子市宮下町～同市戸吹町)

令和6年10月8日(火)

建設局河川部

目次

1. 事業概要	1
2. 社会経済情勢等の変化	7
3. 事業の投資効果	11
4. 事業の進捗状況	14
5. 事業の進捗の見込み	17
6. コスト縮減等	18
7. 対応方針案	19

1. 事業概要

位置図

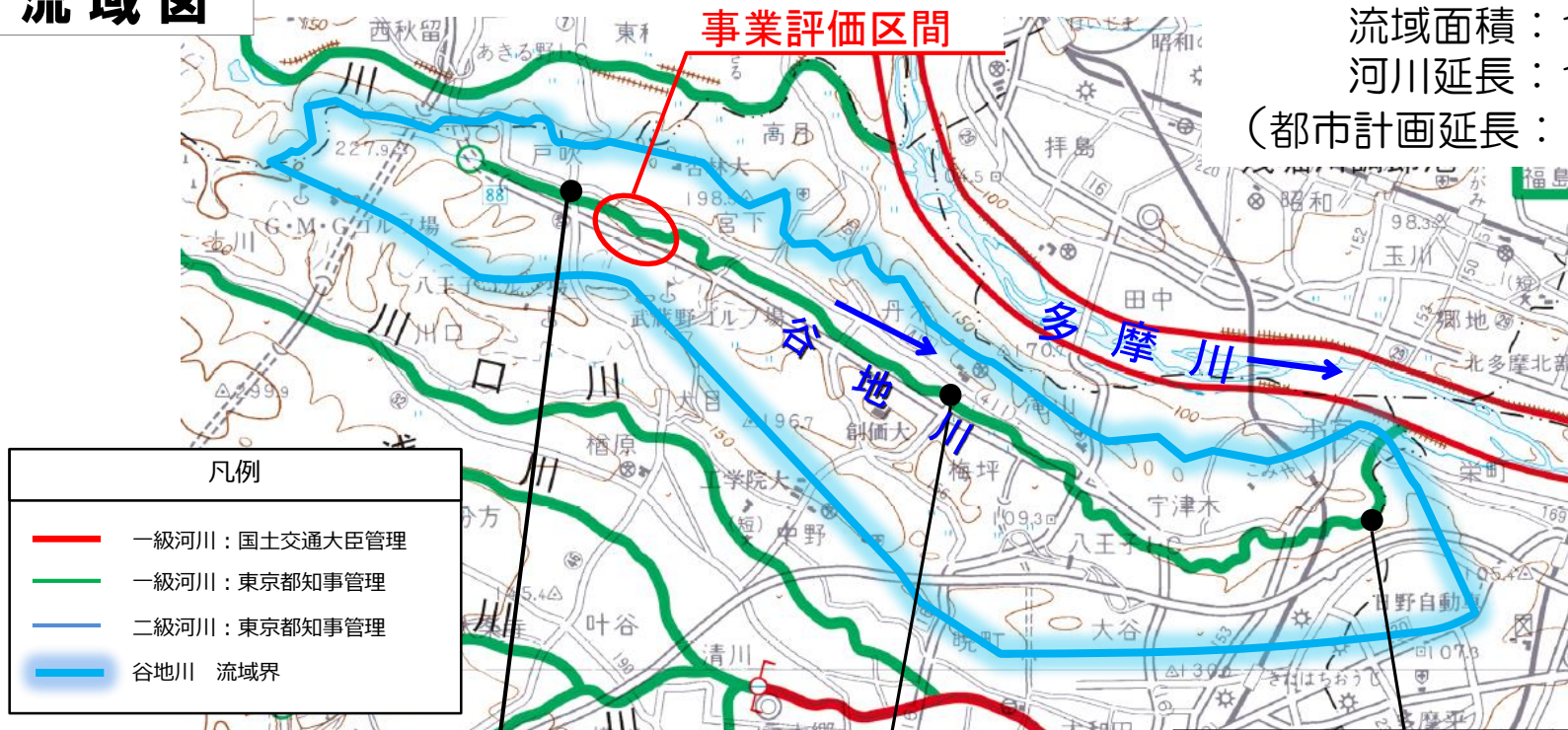
【事業評価区間】

谷地川 八王子市宮下町～同市戸吹町



1. 事業概要

流域図



流域面積：18.2km²
河川延長：12.9km
(都市計画延長：10.7km)



かいど
開戸橋下流側



たきやま
滝山橋上流側

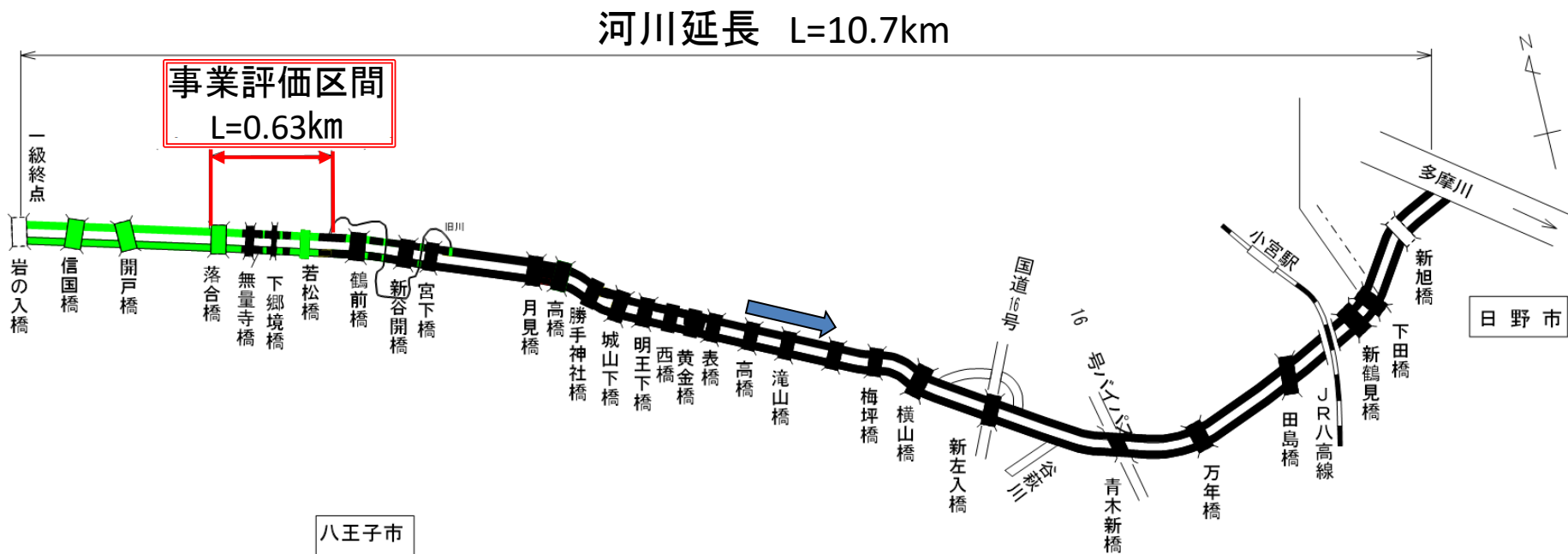


しもだ
下田橋上流側



1. 事業概要

1時間あたり50ミリの降雨に対応する護岸整備を行い、洪水による水害の危険から都民の生命と暮らしを守るとともに、うるおいある水辺空間の創出を図っている。

整備状況図



凡例

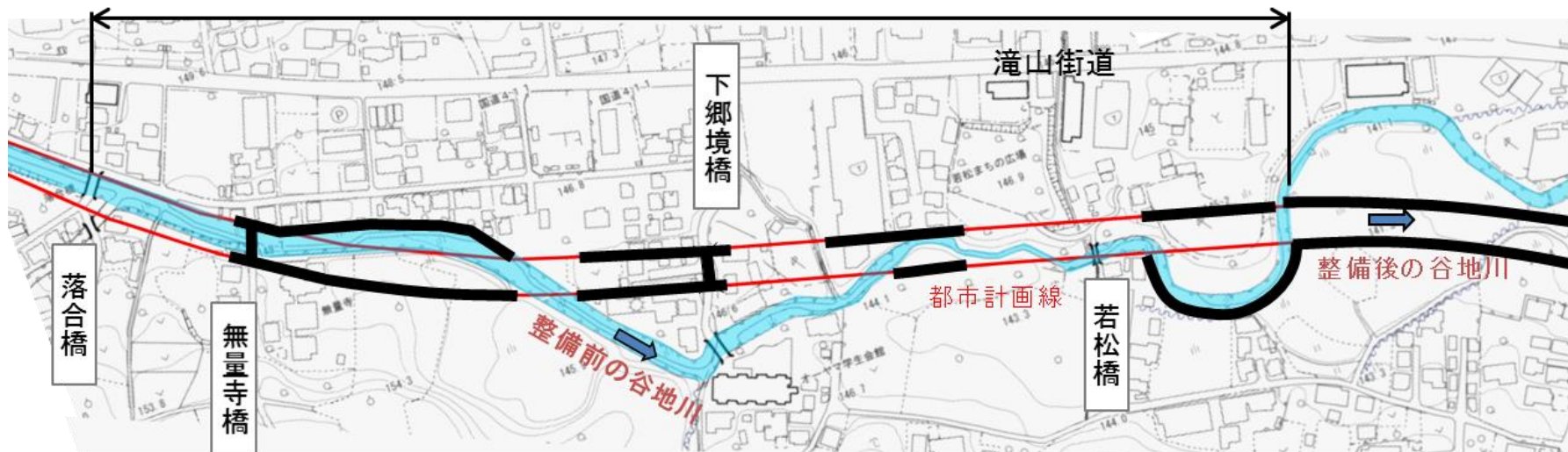
整備済 
未整備 

護岸整備率 約79% (令和5年度末時点)

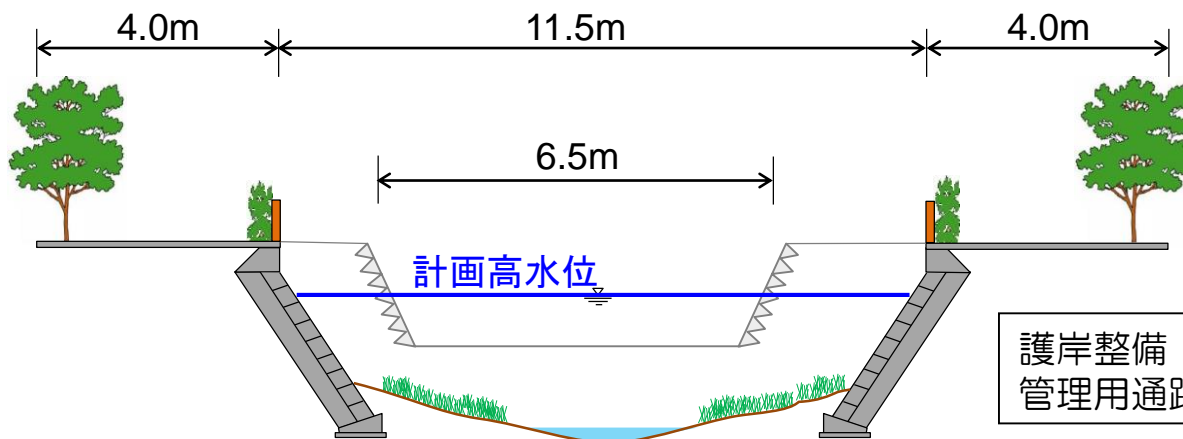
1. 事業概要

平面図

事業評価区間 630m



標準断面図



護岸整備	川幅	11.5m
管理用通路整備	両岸	4.0m

1. 事業概要

整備イメージ



蛇行を繰り返し、瀬や淵が連続している
河川に近づける空間がない



河道拡幅による治水能力の向上



緩傾斜護岸の整備により親水性のある水辺を形成

1. 事業概要

経緯

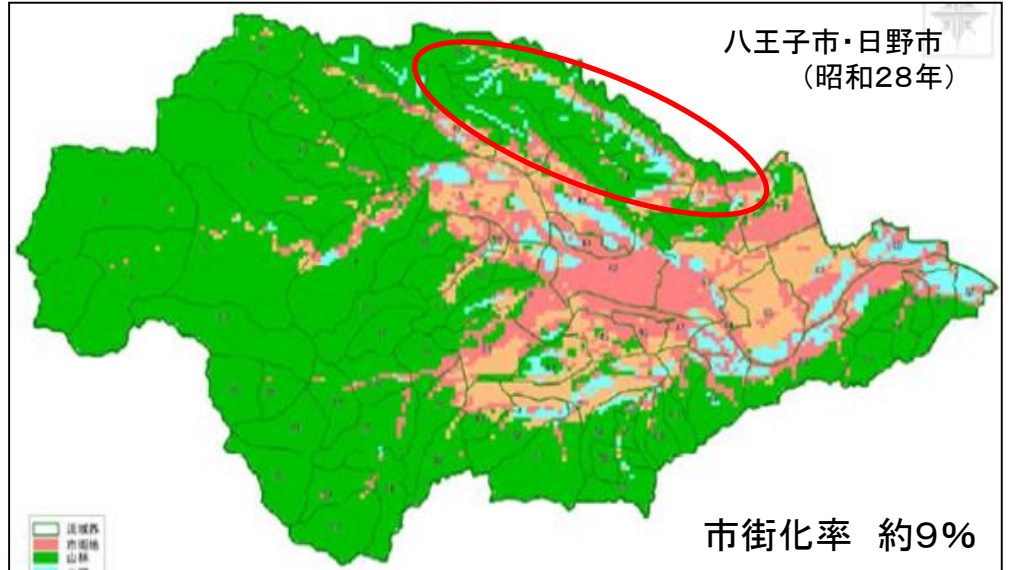
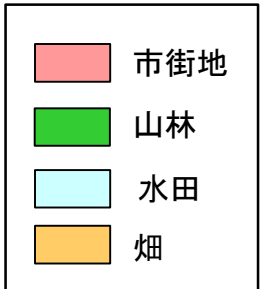
年度	計画等
昭和46年	都市計画決定（当初）
平成18年	河川整備計画 策定
平成21年	事業認可（当初） 平成21年度～平成27年度
平成27年	事業認可（延伸） 平成21年度～令和2年度
令和2年	事業認可（延伸） 平成21年度～令和7年度
令和7年	事業認可（変更予定）

2. 社会経済情勢等の変化

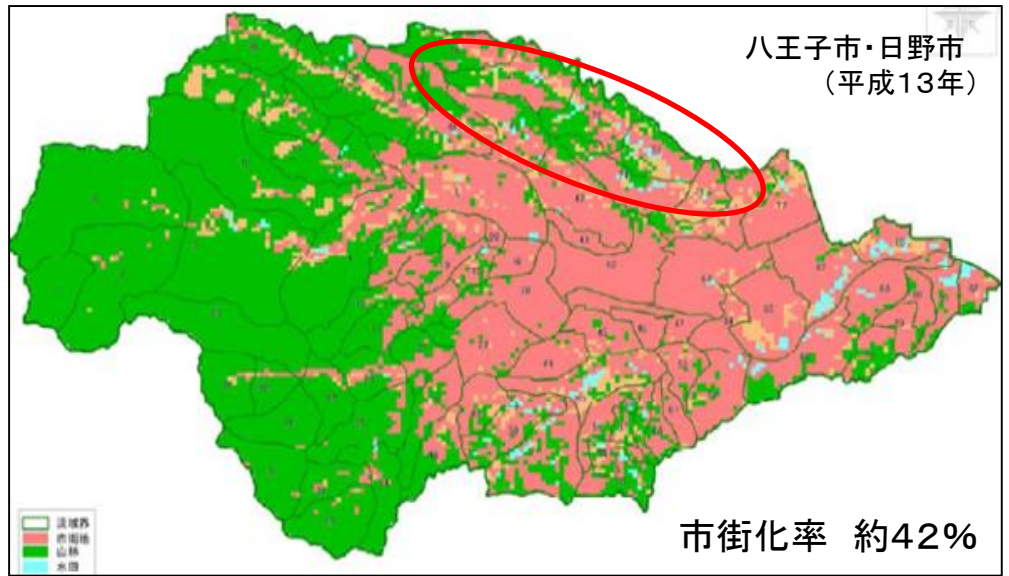
土地利用状況の変化



谷地川流域をはじめ、八王子市・日野市では、宅地開発等による市街化が進行している。



谷地川流域



2. 社会経済情勢等の変化

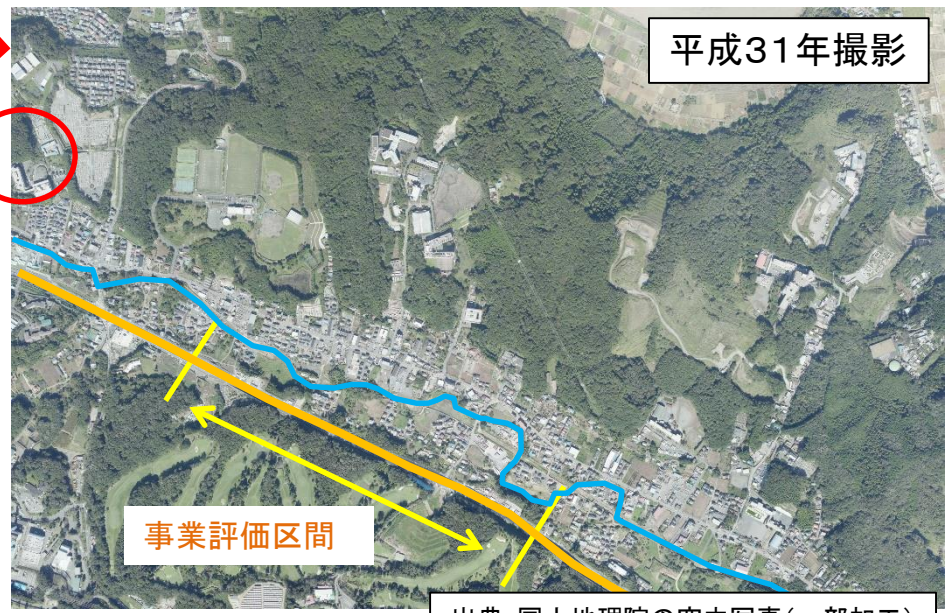
土地利用状況の変化



- 事業評価区間周辺においても、市街化が進行している。
- 新滝山街道の全線開通後、物流拠点や企業の研究所が新たに進出している。

【凡例】

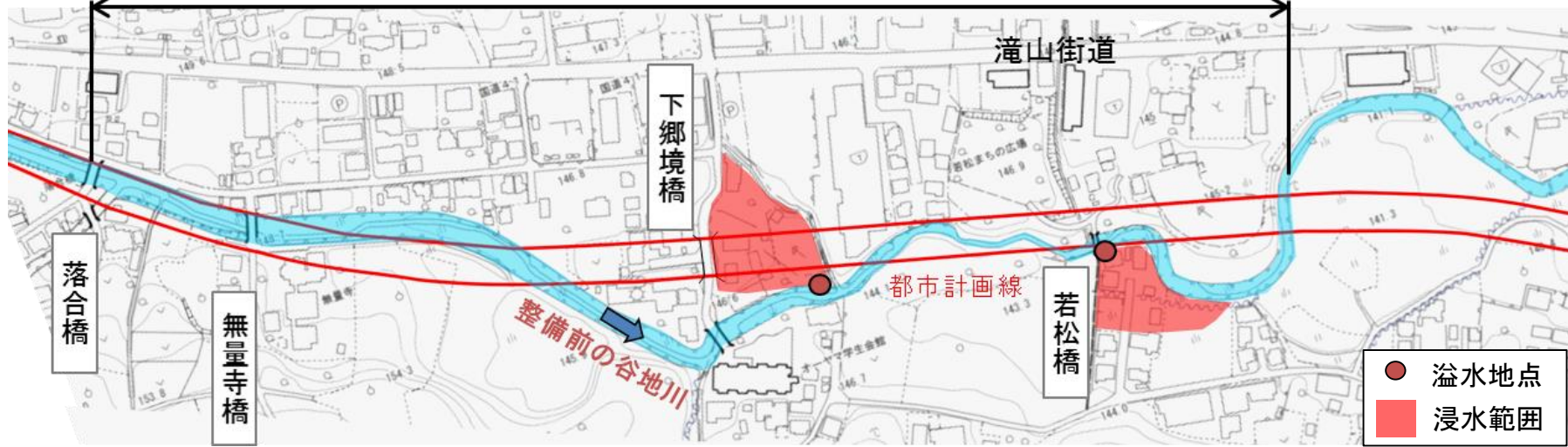
- 新滝山街道
- 物流拠点・研究所



2. 社会経済情勢等の変化

過去の水害実績

事業評価区間 L=630m



平成20年の水害

年度	浸水回数	浸水面積	床下浸水	床上浸水	被害額
H1~H10	5回	0.61ha	27戸	5戸	185,790千円
H11	1回	0.11ha	26戸	6戸	69,109千円
H14	1回	0.05ha	4戸	0戸	5,240千円
H20	1回	0.57ha	11戸	1戸	15,255千円
H25	1回	0.02ha	1戸	0戸	1,438千円
H28	1回	0.19ha	6戸	1戸	49,148千円
H29	1回	0.97ha	2戸	4戸	105,082千円
R1	1回	0.89ha	41戸	0戸	183,592千円



下郷境橋付近



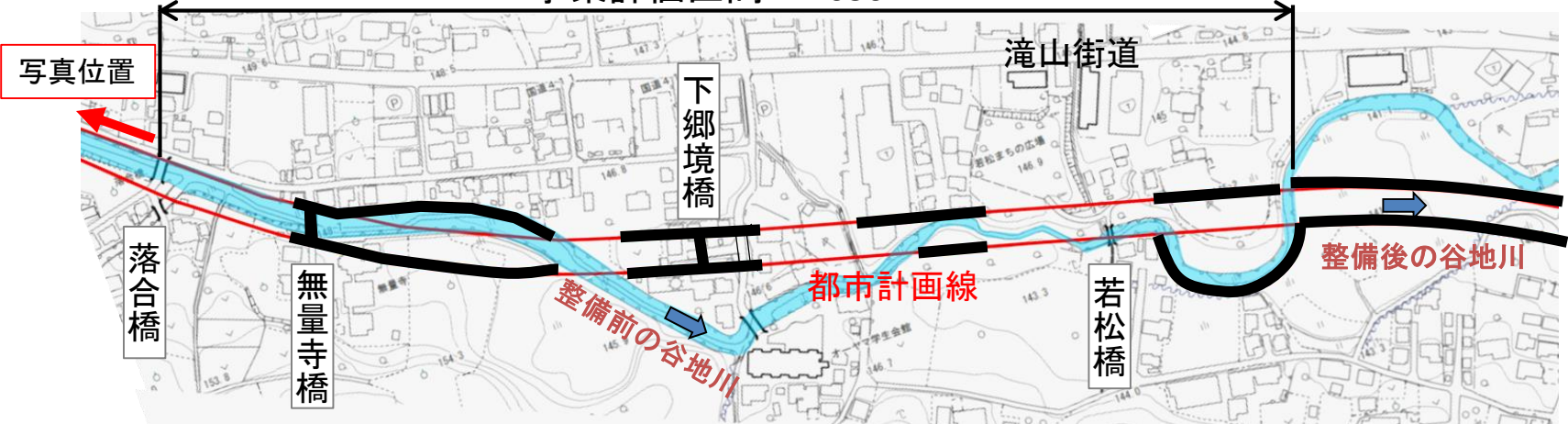
若松橋付近

2. 社会経済情勢等の変化

災害発生危険性

流下能力が計画流量に満たない区間があり、溢水による水害が発生する危険性がある。また、周辺では市街化が進行しており、水害発生時の浸水被害の拡大が懸念される。

事業評価区間 L=630m



落合橋上流付近(平成17年)



落合橋上流付近(現在)

3. 事業の投資効果

定量的効果【費用対効果分析】

【河川改修事業に関する総便益（B）】

河川改修事業に係る便益は、洪水氾濫区域における家屋、農作物、公共施設等に想定される被害に対して、年平均被害軽減額を「治水経済調査マニュアル(案)令和6年4月 国土交通省 水管理・国土保全局」に基づき計上

- 現在価値化総便益額（B）
約117.9億円の便益が発生

被害軽減効果①	約112.5億円
残存価値②	約5.4億円
総便益(①+②)	約117.9億円

【河川改修事業に関する総費用（C）】

河川改修事業に係る工事費、用地補償費及び維持管理費を計上

- 現在価値化総費用額（C）
約87.7億円の費用が発生

工事費①	約36.9億円
用地補償費②	約41.9億円
維持管理費③	約8.9億円
総費用(①+②+③)	約87.7億円

【費用便益比（B/C）】

$$\begin{aligned}
 B/C = & \frac{\text{便益の現在価値化の合計} + \text{残存価値}}{\text{建設費の現在価値化の合計} + \text{維持管理費の現在価値化の合計}} = 1.3 \\
 & \text{(前回2.0)}
 \end{aligned}$$

3. 事業の投資効果

定性的効果 【内水被害軽減】

河川改修により、市の雨水排水管の接続が可能となるため、河川沿いの浸水被害だけでなく、流域内の内水被害軽減に寄与する。

定性的効果 【親水性の向上】

市街化が進行する地域における河川の役割は、安全な街づくりと沿川の風景に調和した水辺の提供であるが、未整備区間では住宅が河道に近接し、植生が繁茂しており、人が安全に河川に近づけない状況にある。



河川改修に合わせ、親水空間等を整備することにより、市街化地域の治水安全度が向上するとともに、川の存在感が向上。



下水(雨水)排水管



親水護岸整備(城山下橋上流)

3. 事業の投資効果

定性的効果 【市民の健康増進】

河川管理用通路を遊歩道として利用できるように整備することで、地域住民の散策やウォーキングのコースとして親しまれ、市民の健康増進に寄与する。

【河川管理用通路の整備】



(谷地川 明王下橋下流)

4. 事業の進捗状況

事業費の執行状況

※ () 内は前回評価時点

令和5年度末時点

	用地費	工事費	合計
全体事業費	1,042百万円 (1,042百万円)	1,192百万円 (1,192百万円)	2,234百万円 (2,234百万円)
執行済額	756百万円 (749百万円)	894百万円 (711百万円)	1,650百万円 (1,460百万円)
執行率	73% (72%)	75% (60%)	74% (65%)

用地取得状況

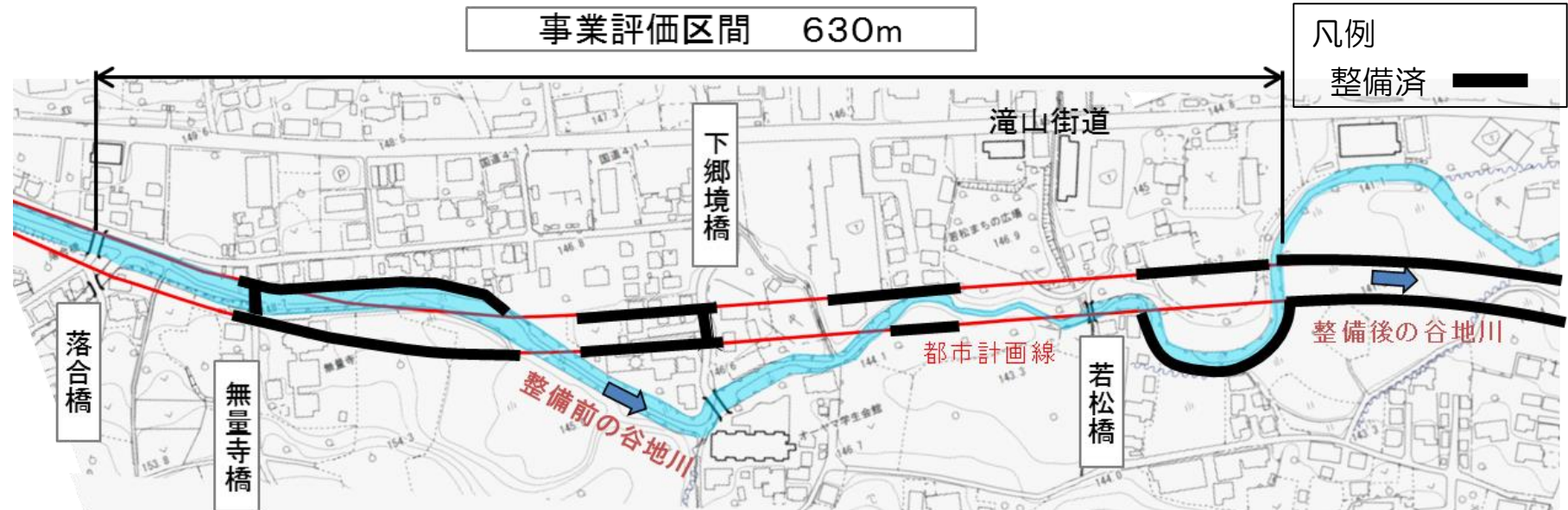
取得予定面積 (A)	既取得面積 (B)	用地取得率 (B / A)
8,521 m ²	7,880 m ² (7,762 m ²)	92% (90%)

4. 事業の進捗状況

事業の進捗状況等

- 工事の進捗率
 - 平成22年度着手
 - 令和5年度末までの護岸整備率約64%
 - (全体延長630mのうち405m整備済み)

- 残事業
 - ・ 用地取得 641㎡
 - ・ 護岸整備 225m
 - ・ 橋梁架け替え 2橋



4. 事業の進捗状況

一定期間を要した背景等

- 現場周辺は狭隘な道路に囲まれており、工事用搬入路や工事に伴う迂回路を確保するための地元調整や借地交渉に時間を要する案件があった。
- 工事契約が不調となったため、工事の進捗に遅延が生じた案件があった。
- 多くの地権者から事業への理解・協力を得られたところであるが、土地境界に争いがある画地や不法投棄のある画地があり、用地折衝に時間を要している。

5. 事業の進捗の見込み

今後の事業の進捗見込み

- 用地取得が難航している権利者との折衝においては、事業の必要性、水害の危険性を十分に説明するとともに、収用を視野に入れ早期の用地取得に向けて調整を進めていく。
- 用地取得後速やかに護岸整備工事に着手できるように、引き続き準備を進め、用地取得後は護岸整備が順調に進む見通しである。



護岸整備予定箇所（落合橋下流部）

6. コスト縮減等

事業手法、施設規模等の見直しの可能性

- ・現状では事業手法、施設規模の見直しの可能性はない。
ただし、水辺環境や生態系などへの影響には留意して整備していく。

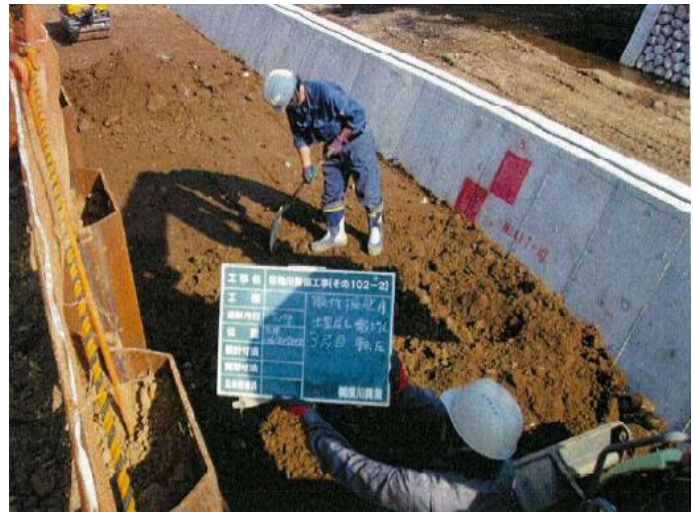
コスト縮減の取組

これまでも、コストの縮減に努めながら事業を実施してきたが、今後も以下の取組により処分に係る費用を縮減する等、コスト縮減に努める。

- ・既設構造物を取壊後、カゴマット中詰材として再利用
- ・発生土を仮置き後、埋戻土に再利用



中詰材への再利用



現場発生土の再利用
(埋戻し状況)

7. 対応方針案

- 平成25年3月に新滝山街道が全線開通するなど、流域全体の市街化が促進されることで雨水の流出量も増え、本事業の重要性は非常に高い。
- 本事業を継続し、治水上の安全性を早期かつ確実に確保するとともに、河川環境の向上に努めた川づくりを進めていく。



谷地川では、治水・環境の両面を向上するため、引続き事業を推進することが必要である。

継 続